

銚子市行財政改革審議会 会議概要

日 時：平成29年11月15日（水）午後1時30分～午後4時00分

場 所：全員協議会室

出席者：委 員 大塚委員、伊永委員、野口委員

銚子市 越川市長 島田副市長 飯田理事 宮澤政策企画部長 長島総務市民部長
笹本産業観光部長 椎名都市環境部長 山口教育部長 菅澤消防長 野口
水道課長 安藤秘書広報課長 伊藤企画課長 宮内財政課長 山口総務課
長 春山税務課長 石田社会福祉課長 林医療対策課長 越川生活環境課
長

事務局 小保方課長補佐 野口主査 猪田副主査

傍聴者 市民1人、市議会議員6人 ほかに報道各社

概 要：委員からの主な意見

- 市民委員会の研修資料はわかりやすいものにし、事前配付すること。
- 財政の深刻な状況を市民にきちんと表現に注意をして伝えること。
- 公共施設の見直しが大変に遅れているので、スピード感を持って進めること。
- 大綱の「財政収支見通し（H27～33）」は、決算等を踏まえて見直すこと。
- 既存事業のスクラップを進めること。
- 実施計画の自己評価（ABC）に、共通の統一的基準を設けること。
- 実施計画シートは、収集した情報の内容も記載するなど、詳しい取組内容がわかるようにすること。
- 職員に対して、市の財政が追い込まれていることを、もっと徹底すること。

事務局

1 開会

ただいまから銚子市行財政改革審議会を開催します。

（傍聴者に対する注意事項説明）

市長

2 市長挨拶

本日は、お忙しい中を銚子市行財政改革審議会にご出席をいただき、ありがとうございます。第2期の銚子市行財政改革審議会の5人の委員の皆様には、昨年度6回の会議を開催していただきました。専門分野や市民の代表の立場からご審議・ご意見をいただきながら、昨年11月に大綱案をまとめていただきました。

その大綱案をもとに、さらに議論を重ね、修正を加え、本年2月に、第7次銚子市行財政改革大綱を策定・発表しました。

大綱の目的は、まず財政の健全化を図ることが第一の目的です。併せて地方創生・銚子創生を力強く推進していくこと、それからアウトリーチを含めて、市民に寄り添う行政運営を図る改革も進めるという3本の柱がありました。

本日は、大綱の「進行管理」にも明記されておりますように、推進項目ごとの進捗状況を説明させていただきます。是非、忌憚のないご意見・ご指導をいただければと思います。

また、同じく大綱に明記された市民目線で進捗状況をチェックするための「市民委員会」の立上げについて、ご議論をいただきたいと考えております。

委員の皆様のご協力をお願い申し上げまして、冒頭に当たりましての挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

3 議事

伊永会長（議長） 議題1 行財政改革の推進状況についてを議題にします。アの行財政改革市民委員会について説明をお願いします。

事務局 （資料1に基づき説明）

大塚委員 市民委員会の発足に向けて動いていることはよいことですが、動きのペースが決して早くないです。市の財政状況を考えるとスケジュールの前倒しを考えてもらいたい。

野口委員 市民にわかりやすい情報の開示を検討してもらい、事前研修で資料を提示する際もわかりやすい内容にしてもらいたい。

伊永会長 事前研修の資料は事前に配付し、十分に読み込んでもらえるようにしてもらいたい。

事務局 できる限り早めに資料を配付したいと思います。

伊永会長 場合によっては選考も実施しなければなりません。私と大塚委員で試験問

題を考えなければならないかもしれないので、候補者が十分に対応できるようにきめ細やかに対応をお願いします。

事務局

そのように対応したいと思います。また、選考のお話が出ましたが、市としては、行革を進める上でできる限り多くの市民の意見を聴くべきという考えがあり、委員の選考に当たっても、会議を開催する際に当日都合がつかない方もいますので、会議が成立するだけの出席者を集めるため、20人よりも多めに委員を確保したいと考えています。

伊永会長

しかし、委員候補者72人と委員数20人には大きな開きがありますので、最悪の場合は選考試験又はレポートのようなものもやむを得ないと審議会のメンバーとしては考えています。万全を期しておいてもらいたいということです。また、選考に当たって気を付けなければならないのは、地域、年齢、職業などが偏らないような委員構成にできればと考えています。

続いてイの平成28年度決算の状況について説明をお願いします。

財政課長

(資料2・3に基づき説明)

大塚委員

大変厳しい状況であるのに、その説明が出ていません。どこの自治体でも実質収支が重視されていますが、実質収支の黒字が減ったという書き方は適切ではありません。実質収支は累積黒字ですから、累積黒字が減ったということは赤字になっているということです。それが現実に出てくるのが実質単年度収支のマイナス3億6,000万円です。今後の収支見通しでも黒字が続くことになっていましたが、どうも実現は困難になってきています。健全化判断比率もイエロカードが出る基準と並べてそれよりは低いという書き方をしていますが、全国の市区町村の平均と比較すれば高いことが明らかです。経常収支比率も下がっていないことが大きな問題です。一般財源からの支出は減らしているが、その経常財源が減っている分まで減らせていないということです。また、銚子市より高い数値の団体のリストを上げて、あたかも銚子市の比率がそれ程高くないように見せています。本当に財政が深刻な状況であることを、ある意味では隠そうとしている。これをもっと深刻な問題として捉えて、そのための改善の措置を講じてもらいたい。

市長	隠そうとしていると見られないような書き方に、銚子市より悪いところだけ上げていては、市民に危機感は伝わらないと思いますので、それは改めていきたい。
政策企画部長	表現の部分は大塚委員の指摘のとおり、まだまだ問題があると思いますので、今後十分気を付けていきたいと思います。
野口委員	地方税の増減理由で、事業収入の回復という説明が、銚子市の実情を考えると適当ではないと思います。ふるさと納税は増えたと理解してよいのでしょうか。資料3の緊急改革プランの取組実績では、実収入が減少しています。また、病院についての資料がないので、情報の開示をお願いします。
企画課長	資料2はあくまで歳入としての寄附額が増加したことを示しています。資料3の実収入については、寄附額から、寄附額を増加させるためのPR経費、謝礼品に要する経費を差し引いたものですので、平成28年度は平成27年度よりPR経費が多くかかったため、実収入額は減少したということです。
医療対策課長	市立病院の決算に関する資料は、事務局と相談し、後日お示ししたいと思います。
税務課長	法人関係は増えてはいますが、ほぼ平成27年度並みの状況でした。むしろ市の基幹産業である農業、水産業を中心とした個人所得の増加が要因と考えられますので、この表現は変えなければならないかと思います。
伊永会長	医師の人数が昨年の8人から5人に減ったと聞いたが、これにより病院の収入はどのように動いたのでしょうか。
医療対策課長	医師の人数は減少したが、現在いる医師の努力により患者数は増加し、本年度と昨年度の上半期の収支を比較すると改善しています。
野口委員	ふるさと納税のPRには今後も多くの経費をかけていくのでしょうか。
企画課長	本年度の予算は、昨年度の約半分です。インターネットによる申込みが8

割を超えているので、申込みの入口を増やす検討をしています。

伊永会長

経常収支比率を90パーセント以下にしていくための方策は、考えていますか。

政策企画部長

経常的な一般財源の減り幅が大きいので、それ以上に経常的な支出を減らさなければ、経常収支比率は上がる一方になります。経常的な支出を見ていくと、人件費と公債費は減っていますが、扶助費と繰出金が増えています。この2つの伸びを抑えていく考えを持たなければ経常収支比率は改善できませんが、扶助費の部分は難しい要素ではあります。

市長

下水道の繰出金については、繰出基準に不明確な部分があるので、これを明確にして、下水道使用料で賄う部分と、一般会計からの繰出金で賄うべき部分の見直しを進めているところです。

大塚委員

扶助費と繰出金の増加が要因になっていることは明らかですが、これを減らすのは難しいです。そうであるならば、むしろそれ以外の経費を減らしていくべきで、物件費や補助費も他市町村の水準と比べると高いので、まだ見直すべき部分はあると思います。資料3の最後の公共施設の見直しの部分が、平成28年度の実績の記載がありませんが、もし何かあれば教えてください。

財政課長

平成28年度は、平成27年度に策定した公共施設等総合管理計画に基づく個別計画の策定を予定していましたが、策定には至っていないということで、今年度中には個別計画を策定して、公共施設の再編、利活用を進めていきたいと考えています。

大塚委員

銚子市自身が作った計画に20年間で延床面積3割削減という目標は掲げています。それにもかかわらず、まだ、計画すらできていなければ、大変に遅れています。そこはしっかりとやってもらいたいです。

政策企画部長

平成28年2月に計画を策定し目標を定め、個々の施設をどうしていくかということ平成28年度中に個別に定める予定でしたが、結局平成28年

度中に仕上がっていませんでした。現時点では、各施設からヒアリングをして今年度のできるだけ早い時期に個別計画を完成させる予定です。それに基づいて、新年度予算にどのように反映させていくかという形で事務を進めています。大塚委員の指摘のとおり、事務は1年くらい遅れている状況ですので、スピード感を持って進めたいと思います。

伊永会長

遅れた理由は、目標そのものに無理があるのではないのでしょうか。

政策企画部長

3割削減という目標は、施設がかなり老朽化していますし、過去の人口が多い時に作った施設ですので、現在の人口に見合った施設数にするということは、現実的なことだと思います。ただ個々の施設をどうしていくかという考えが各担当課でまとめきれていないと思います。これは財政課の管財担当を含めて、そのような考えが足りないと思います。

市長

ご指摘のとおりだと思います。個別計画を進めなければ具体的な成果も現れてこないで、それぞれの担当課が当事者意識を持ちながら、総合管理計画に沿った個別計画を早急に策定していきたいと思います。

伊永会長

続いてウの平成29年度及び平成30年度の財政見通しについて説明をお願いします。

財政課長

(資料4～8に基づき説明)

野口委員

病院は、診療報酬が改定されていますので、大変厳しくなると思います。是非病院の経営改善を進めて、収支不足額を更に縮減してもらいたいと思います。

大塚委員

平成29年度予算と平成30年度予算の中で、実質単年度収支の黒字化に向けて具体的にどのような取組をしていくのでしょうか。

市長

下水道の繰出金の縮減に向け、料率改定を含めて対応しなければならないと思います。それと物件費の見直しも進めていかなければならないと思います。

大塚委員 平成30年度予算編成方針にある既存事務事業をあらゆる角度から検証し、積極的に見直す改善をトップダウンでやってもらいたいです。

市長 現場からのボトムアップで公共施設等総合管理計画の個別計画を進めてきましたが、それがはかどらなかつたので、私がリーダーシップを持って強く号令を掛けていきたいと思えます。

大塚委員 同じく平成30年度予算編成方針3ページの公共施設等の最適配置のところでは、施設に関する予算を増やす話が出ているのに対し、4ページに普通建設事業費の縮減の話が出ていて、これをどうやって両立させるつもりなのか。

政策企画部長 3ページの公共施設等の最適配置の部分では、まずは、それぞれの施設について長寿命化をするのか、除却するのかをきちんと判断し、長寿命化を選択した場合は関連の予算を要求してもらいますが、長寿命化に当たっては、当然国等の補助事業を選択して長寿命化の制度を活用してもらうことを考えています。4ページの普通建設事業費の縮減の部分では、除却を除いた地方債の年間発行限度額を5億円に設定しますが、長寿命化の部分では、国等の補助事業を選択し、なおかつ、地方交付税の措置のある地方債を選択してもらいたいという考えです。

大塚委員 長寿命化に関しては、施設の更新のために国が一定の負担をする起債が認められていますが、国の負担割合は40パーセントか50パーセントくらいで、残りは市が返済しなければなりません。国の負担があるかという視点も必要ですが、市民の使い方の視点から長寿命化をすべきかを考える必要があります。そうすると国の負担がなくても、やらなければならないものがあると思いますが、銚子市にはそのお金がないということですので、それをどうしていけばいいのか、しっかりと考えてもらう必要があります。

それと以前の会議で、平成33年度までの収支見通しについて、以前と想定が違っている部分があるので、収支見通しを見直す予定はあるのでしょうか。

政策企画部長	平成28年度の決算が確定しまして、平成29年度の決算見込みも出てきますので、その都度の見直しは必要ですので、当然修正を加えていきたいと思えます。
伊永会長	資料4の1ページで、国民健康保険事業の赤字を繰上充用で後送りしていますが、これを解消する見込みはありますか。
市長	平成30年度から都道府県の運営になり、県から標準料率が示されますので、来年の4月1日からこれに合わせた料金改定をして改善を図りたいと思えます。現在、国民健康保険事業運営協議会で議論していますので、その結論を見ながら、来年の4月1日からの料金改定により対応します。
大塚委員	このままでいくと平成30年度は実質赤字にならざるを得ない。実質赤字になっている団体は、夕張市を含め全国のどこにもありません。そういう状況にまで銚子市は追い込まれているということを少なくとも職員の中では徹底しないと改善は進まないと思えます。
野口委員	歳入の見込みについては、保守主義の考え方で、低めに見込んでもらいたい。あまり過大な見込みはしないでももらいたいです。
伊永会長	他市町村と比較しても銚子市は事業数が多すぎます。この近隣でやっている事業で銚子市がやっていないものはありません。つまり、選択と集中が全くできていないということが銚子市の財政の特徴と言えます。平成30年度は、緊急性の高い事業以外は実施しないと方針に明記されていますので、緊急性の高くない既存事業をスクラップ・アンド・スクラップしてもらいたい。新規事業をする場合のスクラップ・アンド・ビルドは当然ですが、既存事業のスクラップができるかどうか銚子市の運命を握っていると思えます。難しいことですが、是非実行してもらいたいと思えます。 続いてエの第7次行財政改革大綱実施計画の進捗状況について説明をお願いします。
事務局	(資料9・10に基づき説明)

伊永会長 自己評価Dについて説明があればお願いします。

事務局 基本的に自己評価はA B Cの3段階で行っています。Dは評価ができない「その他」という意味で、外的要因などにより取組を進められなかったものなどが対象となっています。つまり、目標を設定したもののどうしようもないような状況ではないかと考えられます。

伊永会長 これを続けても意味がないのではないのでしょうか。テーマを変えてもらうなり工夫が必要なのではないのでしょうか。

事務局 無理な取組をいつまでも続ける必要はないかと思しますので、確認をしながら、少なくともA B Cの評価に収まるような形に見直しをしたいと思います。

大塚委員 資料10を今後市民委員会の資料にするのであれば、市民がA B Cの評価の意味がわからないと評価のしようがないです。統一的な基準で評価をするために基準を明確にしてもらいたい。

事務局 市民委員会に向けて、わかりやすい資料の作り方に気を付けたいと思います。今回は上半期ということで決算などの数値が出ない中での評価をお願いしたので、各担当課も具体的な数値に基づく評価ができず、上半期の取組を達観して評価した面もあります。今後はわかりやすい評価ができるような基準を考えていきたいと思います。

市長 A B Cの基準が不明瞭で、数値目標に当てはめられない項目もありますので、共通の基準というものを考えたいと思います。

大塚委員 少なくともC評価であれば、下半期に向けた対応を回答してもらう必要があると思います。それと資料10の12ページ番号91番の「財政状況等の職員への周知徹底」について評価はAですが、個別計画の策定は進まず、財政的な見直しができているかも見えてこない。ということは、まだ意識が十分徹底されていないとしか考えられないので、下半期に向けてもっとしっかりやってもらいたいと思います。

- 市長 市民委員会では、今後の取組方針を資料に追加したいと思います。
- 野口委員 10ページ80番「市債の情報開示」の取組実績の記載が、「他市の状況を情報収集した。」で終わっています。市民委員会までには、情報収集した内容を整理して開示してもらいたい。これは他の取組全般に対して言えることです。
- 市長 市民委員会では、もう少し詳しい個別シートのようなもので評価をしてもらいますので、もう少し詳しい取組の内容がわかるような資料を作成したいと思います。
- 伊永会長 負担になるかもしれませんが、大綱として発信した以上結果が求められるということで、各担当課に周知徹底していただきたいと思います。
議題として予定した内容は以上ですが、その他に意見等がありますか。
- 野口委員 大綱の第5章に行財政運営を支える地方創生・銚子活性化の取組として、第1節から第9節までありますが、全てを実施するのは難しいと思いますので、優先的に取り組むべき項目はどれなのか検討してもらいたいです。
- 市長 第4章と第5章の部分は、本日は議論していただく時間はありませんでしたが、次期の総合計画の策定を進めているので、その中に位置付けていきます。また、第5章の部分は、評価の項目からは除いています。
- 伊永会長 来年1月の市民委員会の事前研修では、大塚委員が財政面を説明し、財政の後ろ向きな部分を精神面で支える第4章・第5章を私が説明をします。本日議論したような細かい資料については財政課で説明してください。
- 市長 第4章までは進捗管理の対象ですが、第5章は実施計画がありませんので、シートを作成することができません。
- 伊永会長 事前研修の際の説明では触れさせていただきます。それと事業のスクラップをしてもらいたいと言いましたが、現時点で難しいものがあるならば教え

てください。

市長

福祉と子育て支援の部分でのスクラップは、大変デリケートな問題ですので、既に関係者や施設利用者との意見調整を始めましたが、やはり丁寧に進めなければいけませんので、取組を発表できる段階ではありません。しかし、厳しい財政状況の中で、この部分の事業と施設のスクラップも進めなければいけないので、やらない訳ではありません。

伊永会長

具体的なところでは、市立幼稚園 5 園と私立幼稚園が 2 園ありましたが、私立幼稚園に 350 人が通い、市立幼稚園に 5 園で 94 人が通っていました。これは早い時期に整理したほうがよいのではないのでしょうか。

市長

73 番の実施項目にあります。今年 7 月に市立幼稚園の統合の方針を決定し、現在 4 園ある市立幼稚園を、平成 32 年 4 月から 2 園に統合します。

伊永会長

2 園でも多い気がしますので、順次解決してもらいたいと思います。

市長

1 園は、西部の豊里地区にあり、周りに保育所も幼稚園も民間が全くない地域ですので、幼保一元化も含めて、実情を踏まえながら進めていきたいと思っています。

伊永会長

以上をもちまして議事は終了したいと思います。

5 閉会

事務局

以上で銚子市行財政改革審議会を閉会します。